

# 11-1

## 中学校 特別活動（学級活動） 指導事例 「学級委員を中心に学期末の反省をしよう」

### 【目標】

学級活動をととして、望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一員として、学級や学校におけるよりよい学校生活づくり参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的・実践的な態度を育てる。

### 【目指す子どもの姿】

他人のことでなく自分のこととして反省を行い、次の目標に生かしていく姿

### 1 主な活動と「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

主 な 活 動	ポイントになる学びのプロセス
<p><b>学年での学級委員会会議</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学級の現状を情報交換し合い、課題について確認する。</li> <li>自分の学級のことだけでなく、協力し合ってよい学年を共につくることを確認する。</li> <li>学年目標を達成するために、「よりよい学級」とはどんな学級なのかを意見交換する。</li> </ul>	<p>他者の考えを聞き、 合意形成を図る</p>
<p><b>学級会議</b></p> <p style="text-align: center;"><b>ポイント</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1学年の初めの学期の反省は、学級反省を行うのではなく、学級委員会から出された、学年目標を達成するための「よい学級のために必要な項目」の検討を行う。話し合いの中で、さらに精度の高い項目をつくり上げると共に、学年の各生徒によりよい学級とは、こういう学級なのだという考える材料を提供し、共通理解していく。</li> </ul>	
<p><b>学級委員会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学級の修正案を持ち寄り、学年総会にかける柱を絞り込む。</li> </ul>	
<p><b>学級会議</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学年総会に出される修正案に対する、学級の姿勢決定。</li> <li>質問・意見・修正案を作成する。</li> </ul>	
<p><b>学年総会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「よりよい学級を図る項目」の修正案の検討。</li> </ul>	
<p><b>学級会議（学期末反省）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学年総会での決定をもとに反省を行い、自分の学級を振り返る。</li> </ul>	
<p><b>学級委員会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学級の結果を持ち寄り、見えた課題を洗い出し各学級に持ち帰る。</li> </ul>	
<p><b>学級会議</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の学級と他の学級の結果から課題を分析し、次の学期の目標を立て、方針をもとに具現化するための行動計画を立てる。</li> </ul>	

## 2 政治的教養を育むためのポイント

### ポイント

学年目標を達成するための「よりよい学級」のために必要だと思う項目を話し合  
いましょう。

学級での学期末の反省で使用する反省用紙の項目を、学級委員会で話し合い、生徒が主体的に決定して行くことによって、学年目標を達成するためというねらいが明確になる項目になります。その際、次のような点を取り上げ、話し合うことによって、学級委員会でよりよい人間関係を築くことができます。

- ・学年や学級の現状や実態（課題や問題を取り上げる）
- ・問題の焦点化（解決への見通しをもつ）

話し合いでは、合意形成を図り、集団決定を行います。そうすることで、自分たちで決めた項目を達成していくために、意欲も高まり、自分のこととして課題や問題についてとらえることができます。

#### 【生徒が話し合った項目の例】

- |           |                           |   |
|-----------|---------------------------|---|
| 「クラスの間関係」 | ・クラスの中にいじめや差別がない。         |   |
|           | ・人の失敗を笑わない。               | 等 |
| 「授業での取組」  | ・意見を自由に発言できる雰囲気がある。       |   |
|           | ・どの教科の授業でもまじめに取り組むことができる。 | 等 |

### 生徒が考えた項目から判断する「よりよい学級づくり」

#### （どんな集団、組織がよりよいのかを考えるきっかけにしましょう）

各学級の反省事項は、評価に規準があるように、よい学級とはどのような学級なのかが、学年生徒全員に共通理解されていて、その内容が生かされた項目のもとに反省を行うことで、課題の発見や次の目標、方針づくりに生かすことができます。

そのために、まず学級委員が考え出した反省項目の原案を、1学年の最初の学期に、学級会で検討、修正し全員が考えるきっかけをつくりました。この過程が反省をただ行うのではなく、全員を同じ舞台に乗せることで、一人ひとりの意識を、他人ごとでなく自分のこととしてとらえることにつながります。さらに、その結果から課題を分析し、全学級で見合えるようにすることにより、結果の客観性を高めるものにします。

さらに2学年、3学年とこの項目を修正しながら積み上げていくことで、経年変化をつかむこともできます。また3学年の最終反省では、この結果の後に、「昨日・今日・そして明日の私」というタイトルで、自分自身の変化を刻む作文を書かせ、振り返りをすることができます。